

京都大学こころの未来センターシンポジウムでコメント

金子 昭

京都大学こころの未来研究センター主催「東日本大震災関連シンポジウム 第5回『震災後の自然と社会』」が7月22日、京都大学稲盛財団記念館にて開催された。第1部では、田中克・京都大学名誉教授が「震災後の自然環境の変化」、また草島進・山形県議会議員が「震災後の社会と持続可能な未来」というタイトルで基調講演。第2部では、島藺進・上智大学グリーンケア研究所長による「原発事故が問いかけるもの」と題した報告の後、総合討論が行われた。私は第1部のコメンテータとして、田中氏と草島氏の基調講演についてコメントし、震災後の自然環境及び地域社会の有り方について問題提起を行った。

2014年度宗教研究会

第1回「キリスト教と性」(7月13日)

金子珠理

本年度の宗教研究会では、年間のテーマを「同性愛と同性婚—宗教はどう受け止めるべきか」とし、世界の諸宗教が同性愛と同性婚についてそれぞれの教理からどのように考え、実践してきたかを学ぶと同時に、天理教では今後どのように考えていけばよいのか、議論を深めていく予定である(企画:天理ジェンダー・女性学研究室)。

人間の性は必ずしも男性と女性だけではなく、性的マイノリティが一定数存在する。現実問題としては、人権保障の観点から、彼らのさまざまな権利を保護する傾向になってきた。日本ではまだ法的には認められていないが、欧米では同性婚合法化の動きが強まっている。これも新たな婚姻の形であるとするれば、宗教界は布教現場で直面するこれらとどう向き合うかが課題となってくる。

第1回研究会では、「キリスト教と性—とくに同性愛者差別/排除をめぐる—」と題し、講師の堀江有里氏(公益財団法人・世界人権問題研究センター専任研究員、日本基督教団牧師、関西学院大学神学部等非常勤講師)より、キリスト教における議論と事例の紹介、そして聖書解釈上の問題提起などがあった。

その中で堀江氏は、そもそも「キリスト教は同性愛を受け入れることができるのか?」という議論自体が、同性愛者当事者の頭上で行われており、その「取り扱い」にのみ焦点を当ててきた議論であることを指摘した。賛否が拮抗する議論の中で取りこぼされてきたものは何かを考察するのに、議論の中で使用される用語の違いが参考になるという。議論の多くが「同性愛」(homosexuality)を行為や現象として把握してきたのに対し、当事者側は「同性愛者」(lesbian/gay)という主体から出発してきた。つまり同性愛者であること (be) というアイデンティティや属性の問題が、同性愛をすること (do) という行為の問題にずらされ、同性愛者が性的存在として一元化されてしまうという。

また堀江氏は、キリスト教におけるキア神学の1例として、「滅亡させられたソドムの町」(『創世記』19:01-29)を題材に

挙げ、ホモフォビア的解釈の中で女性嫌悪(ミソジニー)が見過ごされてきたこと、ある特定の解釈が絶対化される回路において、それを後ろ盾する権威として「神」が引用されることなどを詳しく解説した。

天理教の実践教学においても、このようなキア研究を行うとすれば、その場合の構築の際の基本姿勢などについて、多くの示唆を得ることができたように思う。

日本宗教学会第73回学術大会報告

標記学術大会が同志社大学今出川キャンパスを会場に、9月12日から14日にかけて開催された。12日午後からの公開シンポジウム「宗教と対話—多文化共生社会の中で」では、細分化が進む宗教研究にとって、宗教(研究)間の対話、宗教と世俗社会の対話、また、隣接する諸学問との学際的な対話が不可欠であるという問題意識のもと、3人のパネリストによって、それぞれ国際政治、生命倫理、社会福祉の視点から宗教研究に対する提言がなされて議論の時間がもたれた。翌13日、14日には14の部会に分かれて個人発表、パネル発表が行われた。

天理大学関係者の発表は以下の通りである。

岡田正彦「宗教学と仏教史—村上專精の『五種の研究眼』をめぐる—」

島田勝巳「眼差しの神秘—クザヌスの所論をめぐる—」

渡辺 優「ミシェル・ド・セルトーの神秘主義研究と『神学』」  
トロヌ・カルラ「長崎における『聖なる空間』の変遷—キリシタン時代を中心に—」

澤井義次、パネル「井筒俊彦の『東洋哲学』への宗教学的視座」  
のコメント・司会

澤井治郎「天理教原典Iにおける『みち』」

山田政信「在日ブラジル人の流動的な宗教コミュニティ」

堀内みどり「天理教の救い—教祖と『安産の神さま』」

その他、天理教に関する発表として次のものがあった。

陳 宗炫「韓国人信者にみる日系新宗教の受容—天理教韓国教団を中心に—」

(澤井治郎 記)

『グローバル天理』  
合本のご案内

これまで出版された『グローバル天理』の合本を頒布しています。これは2000年から2013年までの各1年分(12号分)を1冊にまとめ、簡易製本したものです(頒価は200円)。

公開教学講座の会場と、研究所事務室のみで取り扱っていますので、是非お求め下さい。なお、郵送による頒布はお断りさせていただいております。お問い合わせは郵便かFAX、もしくはEメールにてお願いします。